担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る
「担当者のコラム」



がれきの広域処理、その役割に思うこと

業務推進部　清和　麗
Seiwa Urara

これまで、廃棄物処理の現場を取材させていただくことが何度かありましたが、現場では、廃棄物を適正に処理する“役割”に使命感をもっておられる方々がいて、毎回、敬服の念を新たにしていました。

廃棄物処理はこれまで様々な問題に直面し、それは時に社会問題化し、連日マスコミに取り上げられることもありました。

先日も、災害廃棄物のがれき処理の受入について周辺住民の反対の様子がニュースとなっていました。目に見えない放射性物質への不安と情報への不信。

かつての焼却施設のダイオキシン問題に似ている印象を憶えました。

今回の東日本大震災のがれき処理は、膨大な量のうえ広域処理の受入拒否など、これまでのようには乗り越えられない事態のように思いました。

しかし、被災地では、積み上げられたがれきを前に処理を投げ出すことなく、分別や破砕、放射線量の測定等々が日々行われていることを忘れてはいけない、という思いになりました。そこには、その役割に使命感を持って処理をされている方々がいるからです。

がれきの広域処理が迅速に行われ、被災地が一日でも早く、かつての営みを取り戻すための第一歩が踏み出せる舞台となることを祈っています。

編集後記

この夏、第30回オリンピック競技会がロンドンで開催されます。

オリンピック競技委員会では、1992年のバルセロナオリンピック競技大会以降、オリンピックにおける環境対策を実施しています。

今回のロンドンオリンピックスタジアムの屋根は、不要になったガス管を利用して作られました。限りある資源を有効に活用（再利用、再生利用）し、その資源の持つパフォーマンスを最大限に生かす技術がオリンピックスタジアムに用いられています。

本号の「行政のうごき」では、地球上に存在量、産出量が少ないが、「産業のビタミン」として様々な工業製品の製造に欠かすことができない、レアメタル、レアアースの回収及びリサイクルの取組みについて福岡県環境部循環型社会推進課から執筆をいただきました。

今後も産業廃棄物に係る有用な情報を発信し、限りある資源の有効活用の促進に貢献できるよう努力していきたいと思います。

（新　井）

本誌に関する連絡先：総務部広報室　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

【アンケートへのご協力のお願い】
日廃振センターのホームページでは、本誌のPDFファイルを掲載しています。ウェブアンケートで皆さまからのご意見等をお聞かせください。
URL　http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi_desc12_2.shtml

日廃振センター情報（季刊）VOL.12 NO.2　発行日：平成24年7月13日　発行人：岡澤和好
発行所：公益財団法人　日本産業廃棄物処理振興センター
〒102-0084　東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階
TEL：03-5275-7111　FAX：03-5275-7112　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ぎょうせい